

【ジングルコーナー原稿78】

『シスタースケルター』

作：サイトウヤスナリ

イチロウの部屋（という設定）の場所でのやり取り。

アミとヒデミは妹と姉を演じているが、

イチロウは催眠により本当の家族だと思い込んでいる。

○登場人物

イチロウ・・・28歳

敵対組織の幹部。

冷徹で頭の切れる優秀な男だが、ヒデミの催眠術には抗えなかった。催眠中は本来の記憶を無くしており、2人の兄だと認識している。

アミ・・・22歳

組織のエージェント。

ボスの命令により、敵対組織からのスパイを探している。

幼い見た目のせいで、ヒデミが扱う

「対象を家族だと思わせる」催眠術では妹として扱われることが多い。本人はそれを諦めつつも気にしている。

ヒデミ・・・19歳

組織のエージェント。

ボスの命令により、敵対組織からのスパイを探している。

「対象を家族だと思わせる」催眠術を扱う。

大人びた見た目のため、ターゲットからは姉に設定されがち。

本人はまったく気にしていない。

○本編

ヒデミ ここからは、ジングルコーナーをお届けしますよ

アミ タイトルは「シスタースケルター」！ お兄ちゃん、準備はいい？

アミ お兄ちゃん、起きて！

イチロウ アミ・・・休日くらい、ゆっくり寝かせてよ

アミ ダメダメ！ 休みの日に妹と遊ぶのは、お兄ちゃんの責務でしょ！

ヒデミ アミちゃん、あんまりイチロウくんを困らせちゃダメですよ。

お仕事で疲れているんですから。

それに、今日は私の用事に付き合ってもらおう約束もありますし……

イチロウくん、忘れていないですよね？

イチロウ 忘れてないです！ すぐ起きます！

(小声) あぶねーヒデミ姉さんは怒ると怖いからなあ

アミ ねえねえお兄ちゃん、ここに落ちてる資料ってなに？

イチロウ え、それは……仕事のことは内緒だよ。守秘義務ってやつだな

ヒデミ えー私も気になります！ 家族なんですから、隠し事はなしですよ？

イチロウ え、いや……えーっと。わかったよ。

それは、敵対組織に送り込んだ、スパイからの情報だ。

そいつの名前は……あれ、俺は何をしているんだ……

アミ あーあ、いいところで催眠効果切れちゃったじゃん

ヒデミ もう少しだったのに、残念です

イチロウ ちょ、ちょっと待て。誰だお前ら！ なんで俺はこんなところで

(首を絞められ苦しそうに) へへへっ、ヤメロォー！

ヒデミ ほらほら暴れないでください。オオて、どうしましょう？

アミ こうなりゃ、洗いざらい怪しいヤツを潰していくしかないっしょ。

……ヒデミ、そいつもう死んでるから放してあげて

ヒデミ あら、失礼しました。ポイント！……では、参りましょう

アミ あいあい。あ、じゃあね、わびたし可愛く お兄ちゃん

○エンディング

「竹内順子の Take a Chance フジオ！」

「響ラジオステーションで好評配信中」

イチロウ 役 ○○、

アミ 役 ○○、

ヒデミ 役 ○○がお送りしました！